

秋田版「半農半X」成果報告

— 実証から次の展開へ —

令和8年3月
秋田県農林水産部農山村振興課

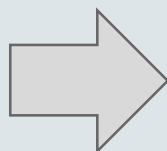
目次

■ 1	事業背景・目的	P3
■ 2	事業概要	P6
■ 3	各実証地域の取組	P13
	(1)八峰町 (R3~R4) 【NPO法人八峰町観光協会】	
	(2)にかほ市 (R4~R5) 【(株)ロンド】	
	(3)鹿角市 (R5~R6) 【NPO法人かづのclassy】	
	(4)由利本荘市 (R5~R6) 【(株)雨風太陽】	
	(5)大仙市 (R5~R6) 【ファイオン(株)】	
	(6)五城目町 (R6~R7) 【(株)See Visions】	
	(7)東成瀬村 (R6~R7) 【東成瀬テックソリューションズ(株)】	
	(8)北秋田市 (R7) 【(株)雨風太陽】	
	(9)横手市 (R7) 【(株)SEEDs】	
■ 4	実証成果	P45
■ 5	秋田版「半農半X」実践に向けて	P58

1 事業背景・目的

背景

- 農山漁村地域の人手不足、人口減少
⇒ 地域の外から人材を呼び込みたい
- 田舎暮らしを志向する田園回帰の流れ
- リモートワークの拡大



- 自分の仕事を継続しながら農林漁業を組み合わせる新しい兼業スタイル「半農半X」

※「食料・農業・農村基本計画（令和2年3月）」において農村の振興に関する施策の中に「半農半X」が登場

- ⇒ 農山漁村を支える人材の確保ができるか？
- ⇒ 移住・定住の促進につながるか？

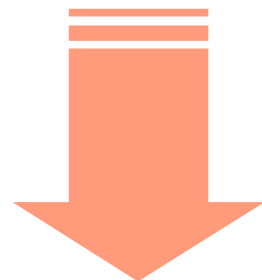
目的

都市部の社会人等を対象に、農山漁村に滞在し、自分の仕事を継続しながら農林漁業を組み合わせる「半農半X」の体験を支援する実証調査を行うことにより、**両立が可能な働き方**や、**関係人口の創出・拡大**、**移住・定住の促進**などによる**地域活性化**の可能性を探る。

「半農半X」の定義

1990年代半ばから塩見直紀氏（半農半X研究所）が提唱

持続可能な小さな**農**ある暮らしをベースに、自分が好きなことや得意なこと（**X**）で世の中に貢献する生き方



- 地域課題解決、地域活性化の手法として注目
- 半農半Xにより自己実現を図る外部人材の活用

実証事業における「半農半X」の定義（事業開始時）

- ①地域外から農山漁村に滞在 ②自分の仕事と農林漁業を両立 ③所得を確保する兼業スタイル

【実証テーマ】

体験参加者にとって

- ・ 両立可能な働き方が可能か？
- ・ 農業への関心や、その先の就農、移住などへつながるか？
- ・ 農山村地域へどのような関わりができるか？

受入農家にとって

- ・ 労働力として助けになるか？
- ・ 労働力以外のメリットはあるか？

受入地域にとって

- ・ 交流・関係人口の拡大や移住・定住につながるか？
- ・ 観光振興、地域づくりなどへの効果は期待できるか？
- ・ 地域課題の解決に結びつく取組になり得るか？
- ・ 取組が自走できるか？

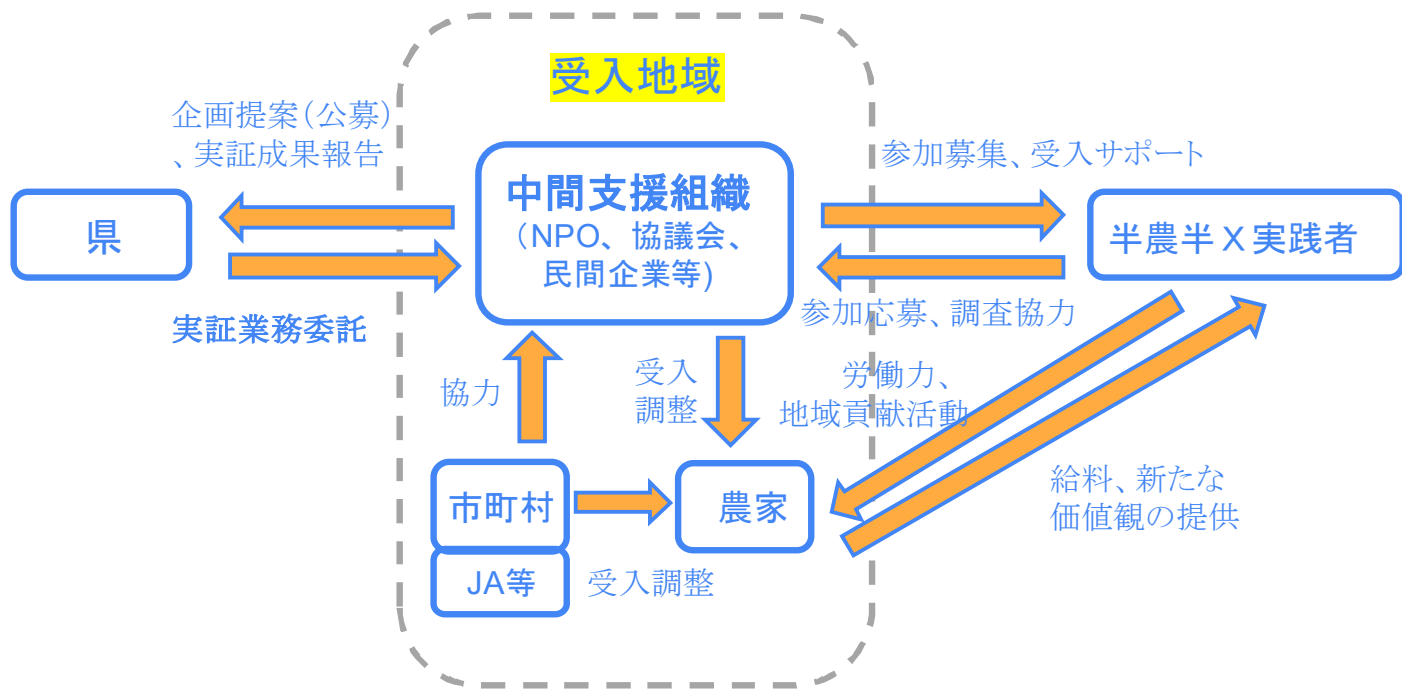
2 事業概要

実証事業の全体設計

- ① 地域外から半農半X体験参加者を募り、一定期間滞在しながら農林漁業（半農）とリモートワーク等で自らの仕事（半X）を実践
- ② 滞在や移動に係る費用（宿泊費、交通費など）は事業で補助（一部又は全部）
- ③ 受入農家と調整し、実施時期、農作業内容等について参加者とマッチング
- ④ 参加者や受入農家等に対し、アンケートやインタビューなどによりモニター調査を実施
- ⑤ 事業者や参加者は滞在の様子や成果等について、SNS等で情報発信



事業の枠組み・体制



【県】

- 事業の実施（委託者）
- 成果等とりまとめ

【市町村】

- 中間支援組織への協力（地域、農家との調整等）

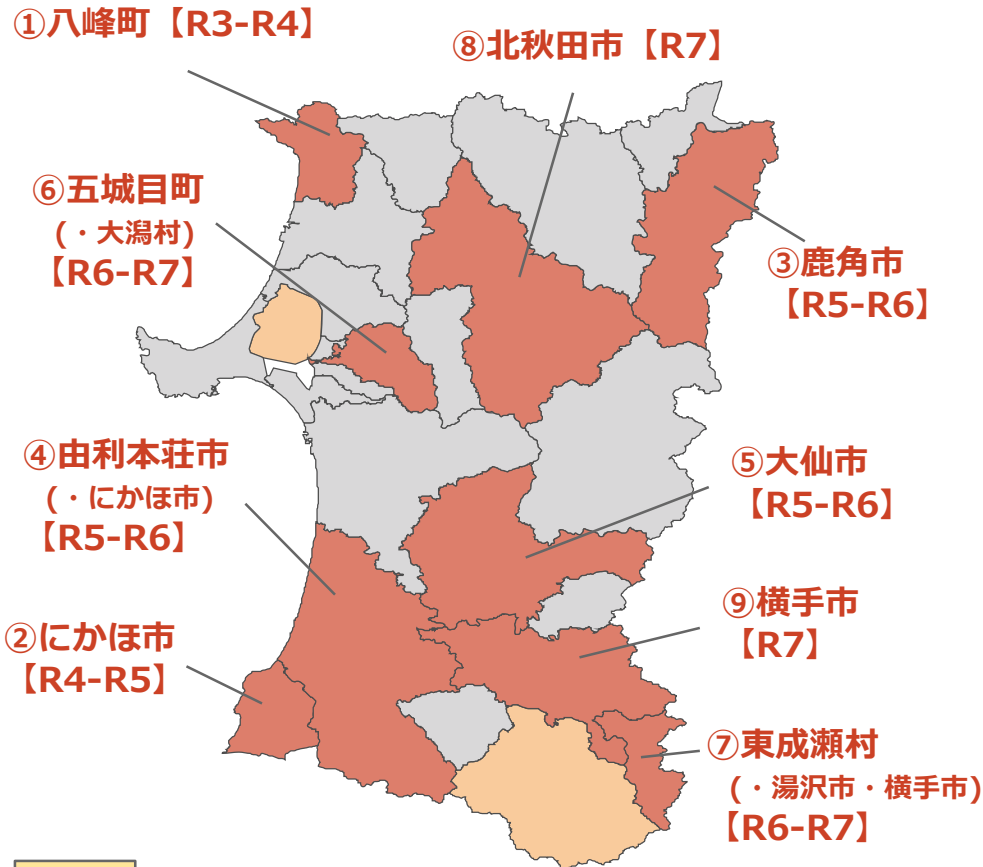
【中間支援組織】

- 事業の実施（受託者）※企画提案
- 参加者募集、受入サポート、地元調整、実証成果報告等

【その他関係機関】

- JA → 受入農家選定の協力
- 観光協会等 → 宿泊、滞在等のサポート

実証地域



※大潟村は五城目町(R6)における実証の農作業実施箇所
 湯沢市は東成瀬村(R7)における実証の宿泊・滞在・農作業実施箇所の一つ

	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
①八峰町	実証				
②にかほ市		実証			
③鹿角市			実証		
④由利本荘市（・にかほ市）			実証		
⑤大仙市			実証		
⑥五城目町（・大潟村）				実証	
⑦東成瀬村（・湯沢市・横手市）				実証	
⑧北秋田市					実証
⑨横手市					実証

全8管内(9地域)で実証

地域	受託団体（中間組織）	実施年度	参加人数 （人）	給与支払の有無	対象
①八峰町	NPO法人 八峰町観光協会	R 3	7	○	個人
		R 4	5	○	個人
②にかほ市	一般社団法人 ロンド （現 株式会社 ロンド）	R 4	6	○	企業
		R 5	5	○	企業
③鹿角市	NPO法人 かつのclassy	R 5	6	○	個人
		R 6	5	○	個人
④由利本荘市 （・にかほ市）	株式会社 雨風太陽	R 5	3	○	企業
		R 6	9	－	企業
⑤大仙市	ファイオン 株式会社	R 5	10	○	個人
		R 6	4	○	個人
⑥五城目町 （・大湯村）	株式会社 See Visions	R 6	5	○	個人
		R 7	5	－	個人
⑦東成瀬村 （・湯沢市・横手市）	東成瀬テックソリューションズ 株式会社	R 6	5	○	個人
		R 7	8	○	個人
⑧北秋田市	株式会社 雨風太陽	R 7	9	－	企業
⑨横手市	株式会社 SEEDs	R 7	5	－	企業
合計	8者（9地域）	5ヶ年	97	有：5地域 無：2地域 両方：2地域	個人：5地域 企業：4地域

事業の変遷

項目	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
事業名	あきた田園ライフ調査事業		多様な「半農半X」 推進事業	「半農半X」実証拡大事業	
実施地域数	1	2	4	5	4
事業費（委託料）	1,160千円	2,321千円	4,637千円	7,096千円	5,707千円
委託費上限(1件あたり)	1,161千円			1,427千円	
<委託仕様>					
給料支払の有無	必須			どちらでもよい	
「半農」と「半X」 の割合	各2割以上	各3割以上			制約無し
「X」の内容	リモートワーク等で自らの仕事を持ち込み		リモートワーク等で自らの仕事を持ち込み 又は 農林漁業以外の地域の仕事		制約無し (仕事でなくても可)
参加者による 情報発信	要				どちらでもよい
実証目的	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; padding: 5px;"> 兼業・複業 (所得確保) 移住・定住 労働力確保 活力創出 地域貢献 関係人口 </div>				

実施内容

(1) 半農半X体験の実施

①受入農家・日程の調整

- ・趣旨に賛同し協力可能な農林漁業者の確保
- ・労働力を必要とする期間を踏まえた日程調整

②参加者の募集・選定

- ・各種広報媒体を活用した参加者募集
- ・県、受入農家の意見を踏まえた参加者選定

③プログラム実施

- ・参加者と農家の仲介
- ・宿泊滞在施設の準備
- ・プログラムのアテンド（必要に応じて送迎）
- ・その他サポート（交流会の開催、相談対応） 等



(2) モニター調査

①事前アンケート調査等

- ・事前に参加者や受入農家等に対しアンケート等により期待や参加理由等を確認

②事後アンケート調査等

- ・実施後にアンケート、インタビュー等によりプログラムの評価、感想、意見等について調査

(3) 情報発信の実施

①受託者による発信

- ・ SNS や動画作成等により取組の内容について発信

②参加者による発信

- ・ 参加者自らの個人アカウント等で SNS により体験の様子の発信

(4) その他企画の実施

①交流会の実施

- ・ 参加者同士や受入農家、受託者の理解を深めるための交流会を実施

②町歩き、地域訪問等の実施

- ・ 地域の理解を深めるため、町歩きや観光地巡り、農家の視察等を実施



3 各実証地域の取組



①八峰町（R3-R4）

受託者：NPO法人八峰町観光協会（八峰町）

実施年度	人数	実施時期	滞在日数	「半農」の内容	受入農家	募集方法	給与有無
R3	7	11～12月	10～21	ねぎ出荷調製、菌床しいたけ出荷調製、ハタハタ選別等	白神農産(株)、(農)はっぼう農園 等	ウェブサイト、SNS、SNS広告、新聞記事	○
R4	5	9～12月	18～24	ねぎ収穫・出荷調製、ミニトマト収穫・梱包等	(農)成合アグリファーム、(農)はっぼう農園 等	ウェブサイト、SNS、SNS広告、新聞記事	○

特 徴

- 農業のみならず漁業も取り入れたプログラムの実施
- 参加者と受入農林漁業者の双方のインタビュー動画を参加者が制作
- 参加者の一人であるデザイナーが農産物のパッケージをデザイン
- 実証事業終了後に町単独事業で半農半Xの取組を継続（R5）

対象⇒個人

など



参加者、受入農家の声

「将来農的生活を目指すためのきっかけづくりとして良い」(参加者)

「車が無いと制約が多い」(参加者)

「田舎でも自分の仕事ができると確信」(参加者)

「『半農半X』という働き方に魅力を感じた」(参加者)

「別の職業の目線から農業を見てもらったことで新たな気づきがあった」(受入農家)

「人手が欲しいタイミングでのマッチングは難しいがそこが肝」(受入農家)

成果

- 体験後も地域を訪れる参加者がおり、関係人口の創出にもつながった。
- デザイナーの参加者が農家の依頼で椎茸のパッケージデザインを行うなど、労働力以外の成果が見られた。
- 八峰町の事業(R5)として継続した取組につながった。

課題

- 参加者の参加目的と受入農林漁業者の受入目的が様々でミスマッチがあった。
- 通信環境が十分ではなくリモートワークに支障があった。

②にかほ市【R4-R5】



②にかほ市（R4-R5）

受託者：一般社団法人(現・株式会社)ロンド（にかほ市）

実施年度	人数	実施時期	滞在日数	「半農」の内容	受入農家	募集方法	給与有無
R4	6	9～11月	5～17	いちじく収穫・出荷調製、ねぎ出荷調製、花卉収穫等	佐藤勘六商店、斎藤農園 等	企業へのアプローチ	○
R5	5	11～12月	4～9	ねぎ出荷調製、花卉収穫等	(株)権右衛門、斎藤農園 等	企業へのアプローチ	○

特 徴

- 企業へ打診し体験参加者を決定
- 地域課題解決に向けたワークショップ、発表会の実施
- 体験参加者と地元の地域プレイヤーや行政関係者等との交流会を開催
- YouTubeによる動画配信

対象⇒企業

など



参加者、受入農家の声

「2週間は長い。雇用形態や就業規則など、副業としての参加もハードルがある」(参加者)

「農家と同じ作業をしながら農業の実態などについて対話できるのは貴重な体験」(参加者)

「参加の意義とメリットを会社に説得するには材料が少ない」(参加者)

「自分で予定を組みやすい職種の方が向いている」(参加者)

「課題を持ちながら作業に取り組む姿が見られ、飲み込みも早かった」(受入農家)

「地域課題解決型ということで、こちらも農業を見直すきっかけになった」(受入農家)

成果

- 参加者による継続的な秋田県とのつながり（副業型地域活性化起業人：にかほ市、半農半Xアドバイザー：八峰町 等）が生まれた。
- 企業が地域課題解決に貢献するという道筋が見えた。

課題

- 副業禁止やリモートワークから出社勤務への回帰など、会社員が副業として取り組むにはハードルが高い。
- 企業からの参加はスケジュール調整が重要なほか、参加意義など企業としてのメリットが求められる。

③鹿角市【R5-R6】



③鹿角市（R5-R6）

受託者：NPO法人かづのclassy（鹿角市）

実施年度	人数	実施時期	滞在日数	「半農」の内容	受入農家	募集方法	給与有無
R5	6	9～10月	9～15	ねぎ収穫、花卉収穫、ミニトマト・さつまいも収穫等	(農)末広ファーム、京花ファーム、綱木農園	SNS広告、SMOUT、ウェブサイト、ダイル外スカウト等	○
R6	5	5～7月	7～14	花卉定植、ミニトマト収穫、桃の袋かけ等	京花ファーム、綱木農園、佐藤農園	おてつたび、ウェブ広告、SNS、ダイル外スカウト等	○

特 徴

- 1名が体験後に地域おこし協力隊となり鹿角市へ移住
- 体験参加者による小学校への出前授業を実施
- 「おてつたび」を活用した募集を一部実施（R6）
- 空き家を活用したシェアハウスを宿泊施設として使用

対象⇒個人

など



参加者、受入農家の声

「他の参加者と交流があることがこの半農半Xの特徴で、親睦や関係性は特別なもの」(参加者)

「多拠点居住の可能性につながると思う」(参加者)

「滞在費(宿泊費、交通費)が最大のネック」(参加者)

「連続した日数と時間で作業してもらえれば助かる。作業が慣れた頃に終了してしまうのが残念。」(受入農家)

「労働力確保はもとより、そこから人の縁や価値観の広がりが期待できる」(受入農家)

成果

- R5参加者の一人が体験参加後も鹿角市に残って独自に半農半Xを実践し、その後移住し地域おこし協力隊となった。
- 「おてつたび」の集客力と事業との親和性が確認できた。
- 市単独事業で同様の取組(仕事体験プログラム)が継続され、新たな移住者や関係人口に結びついた。

課題

- 1年目は、参加者の農業への意欲があまり感じられず、ミスマッチが起こったケースがあった。
- 空き家の活用によるシェアハウスなどの工夫があったものの、スタッフによる車移動のサポートなど、負担が大きい。

④ 由利本荘市【R5 - R6】



④由利本荘市（R5-R6）

受託者：株式会社雨風太陽（岩手県花巻市、東京都）

実施年度	人数	実施時期	滞在日数	「半農」の内容	受入農家	募集方法	給与有無
R5	3	11月	7	ねぎ出荷調製、畜産・養鶏関係作業	(株)ゆりファーム、(株)権右衛門(にかほ市)	企業へのアプローチ	○
R6	9	9~10月	3	えだまめ出荷調製、ねぎ出荷調製	(農)曲沢ファーム、(株)権右衛門(にかほ市)	企業へのアプローチ	—

特 徴

- JA秋田しんせいを介して受入農家とマッチング
- 洋上風力発電関連企業からの参加
- 副業ではなく企業研修として「半農半X」
- 企業が参加しやすいよう3日間の短期プログラムを実施

対象⇒企業

など



参加者、受入農家等の声

「地方創生に関する業務を経験する中で、地域の現状をより詳しく知りたいて思って参加した」(参加者)

「仮説を上回る体験があった」(参加者)

「受入側とのコミュニケーションの時間がもっと欲しかった」(参加者)

「作業時間も期間も短かった。3日ではなく1週間くらいいれば関わりも持てて良かったと思う」(受入農家)

「繁忙期の労働力としては良かったと思うが、JAとして主体的に受入調整を行うのは難しい」(JA)

成果

- 副業ではない企業の研修や地域貢献としての「半農半X」の可能性が生まれた。
- 企業（洋上風力関連企業）としての継続的な参加、関わりがあった。
- 地元JAとの連携という形が見られた。

課題

- 短期間であれば企業から参加しやすい反面、受入側の満足度や地域交流といった点では不十分だった。
- 副業ではなく企業の研修の場合、それぞれの参加の目的に沿った内容にすることが困難だった。

⑤大仙市【R5-R6】



⑤大仙市（R5-R6）

受託者：ファイオン株式会社（大仙市）

実施年度	人数	実施時期	滞在日数	「半農」の内容	受入農家	募集方法	給与有無
R5	10	10～12月	4～8	ごぼう収穫、ねぎ出荷調製、漬物加工品作り等	個人農家(トータルアグリカルチャー)、(有)アグリフライト大曲	ウェブサイト、SNS、ダイレクトスカウト、紹介	○
R6	4	9～1月	8～14	稲刈り、ぶどうの収穫等	(農)中仙さくらファーム、個人農家(トータルアグリカルチャー)	ウェブサイト、SNS、ダイレクトスカウト	○

特 徴

- 中間支援組織（受託者）として多角経営の民間企業が参画
- 大仙市の移住検討者向けの宿泊施設（魅力住宅体験youkoso）を活用
- マンスリーレンタカーやカーシェアリングによる行動の拡大
- 花火、角館などの観光資源も併せて地域の魅力を体験

対象⇒個人

など



参加者、受入農家の声

「農家や関係者などを通じ、**今後も大仙市に関わって**いきたいと思った」（参加者）

「『半農半X』と聞いて、**実践者との交流**や具体的な**就農方法**を期待していたが、**期待外れ**だった」（参加者）

「**補助が無ければ参加しない**と思う」（参加者）

「**他県出身者との交流**がマイナスになることはまず無い」（受入農家）

「**しっかり働いてもらうことが条件**。**新しい働き方**の一つと捉えている」（受入農家）

「この事業の**ゴールは何なのか**。単なるイベントで終わると辛い」（受入農家）

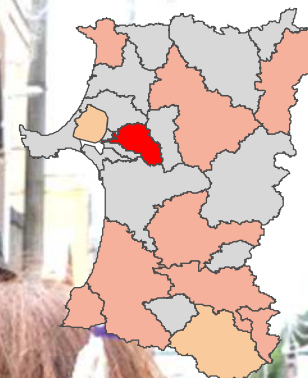
成果

- 観光を含めた地域への理解や、農家、地域活性化に関わる人との交流などにより、大仙市とのつながりを強めてもらった。
- NPOや地域活動組織ではなく民間企業の参画により、多様な中間支援組織のあり方が示された。

課題

- 参加者の「半農半X」に対する期待と内容がミスマッチであった（農作業以外の部分で農業を学びたい）。
- リモートワーク（wi-fi）環境、交通環境（移動手段）の不満が多かった。

⑥五城目町【R6-R7】



⑥五城目町（R6-R7）

受託者：株式会社See Visions（秋田市）

実施年度	人数	実施時期	滞在日数	「半農」の内容	受入農家	募集方法	給与有無
R6	5	10月	5~7	たまねぎの定植等	(株)みらい共創ファーム秋田(大潟村)	SNS、SNS広告、note(ウェブサイト)	○
R7	5	9月	7	えだまめの選別、直売等	(農)山ゆり	SNS、SNS広告、note(ウェブサイト)	—

特 徴

- R6は2町村でプログラムを実施（滞在＝五城目町、農業＝大潟村）
- 親子枠を設定し町の「教育留学」と組み合わせて実施
- 町歩きや振り返りトークイベント、朝市への出店、作業場での野菜の直売等も経験
- 農業ボランティア（給与無し）としての受け入れを実施（R7）

対象⇒個人

など



参加者、受入農家の声

「自分の生活に『農』に関わる時間を作ることに魅力に気づくことができた」(参加者)

「わずか1週間にも関わらず、子どもが『五城目小学校に転校したい』と言ったのは、学校や町全体の温かさの証」(参加者)

「仕事を作ってもらった上に指導で負担をかけ申し訳なかった」(参加者) 「自分たちの農業を知ってもらうには良い機会」(受入農家)

「やることはたくさんあり、こちらで期間に合わせて作業内容を考えることができる」(受入農家)

「1ヶ月くらい秋田県に滞在し、天候等に応じて必要なときに手伝いに来てもらう体制が好ましい」(受入農家)

成果

- 移住に関心が高い参加者が集まり、参加者のうち1名がその後家族とともに五城目町に移住したほか、再訪する参加者が多かった。
- 半農半X体験の後に、にかほ市で農業インターンに取り組む参加者が見られた。

課題

- 短期間では農業労働力を求める大規模法人の期待に応えられなかった(R6)。
- 教育留学は効果的であったが、親の企画参加時間と子の帰宅時間等との調整が難しかった。

⑦東成瀬村【R6-R7】



⑦東成瀬村（R6-R7）

受託者：東成瀬テックソリューションズ株式会社（東成瀬村）

実施年度	人数	実施時期	滞在日数	「半農」の内容	受入農家	募集方法	給与有無
R6	5	1月	7	しいたけの収穫等	(農)滝ノ沢ファーム(間木しいたけハウス)	SNS、ウェブサイト、ダイレクトスカウト	○
R7	8	1~2月	4~7	いぶり大根加工、せりの収穫、しいたけの収穫等	かねはちファーム、(農)三関ファーム(湯沢市)、Pilz(株)(横手市)	おてつたび	○

特 徴

- 冬の東成瀬村（秋田県）の魅力も併せてプログラムに反映
- 「おてつたび」を活用した参加者募集
- 全国各地の農業バイト経験者の参加
- 受託者による近隣市町村（湯沢市、横手市）の農業法人との連携

対象⇒個人

など



参加者、受入農家の声

「**農業バイト**で旅をしており、受入先がもっと多くなれば**全国からの需要**にも応えられると思う」(参加者)

「**様々な半農半Xのあり方**に対して、視点を増やしたい」(参加者)

「雪国への移住も考えていたが、**冬場は雪だけの生活**となり**生活が単調**になるように感じた」(参加者)

「**秋田を売り込む**点としてはとても良い機会だった」(受入農家)

「半日作業は**工程管理**がなかなか難しかった」(受入農家)

「**受託者が間に入って**募集や参加者対応してくれたので、そこまで大変には感じなかった」(受入農家)

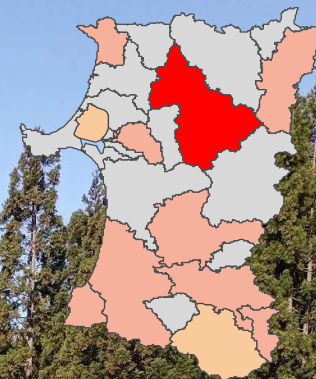
成果

- 「おてつたび」の集客力の高さが証明された（短期間で申込倍率2倍超）。
- 雪（かまくら、雪像づくり）やスキー場など、冬場のコンテンツとの組み合わせにより差別化が図られた。

課題

- 「おてつたび」からの申込者の傾向が「50代以上のフリーター」であったため、地域や農家が求める人材とマッチするか疑問。
- 受託者によるサポートの負担が大きかった。

⑧北秋田市【R7】



⑧北秋田市（R7）

受託者：株式会社雨風太陽（岩手県花巻市、東京都）

実施年度	人数	実施時期	滞在日数	「半農」の内容	受入農家	募集方法	給与有無
R7	9	10～11月	3	ねぎの収穫、なめこの収穫、冬囲い等	了月舎農園	企業へのアプローチ	—

特 徴

- 農家民宿の宿泊と組み合わせたプログラム等、地元観光協会がコーディネート
- 企業の農業現場への理解を深める目的で実施
- 市役所の紹介による農業法人の視察や意見交換など、地域課題解決に向けた具体的動き
- プログラム実施後に東京（アキタコアベース）で座談会の開催

対象⇒企業

など



参加者、受入農家等の声

「企業としては地域の『何を解決してあげられるか』が重要。ゴールを明確にすることで潜在層にも広がるのでは」（参加者）

「農業、地方都市等のリアルな課題の解像度が上がった」（参加者）

「『半』であるメリットはあまり感じなかった」（参加者）

「参加者によって求めるものが違うので、農作業だけでなくマタギ文化や狩猟の知識を生かした研修ができれば面白い」（受入農家）

「課題解決に対して強みを持った企業をターゲットにすると、長期的な関係づくりに期待が持てる」（北秋田市役所）

「参加満足度が高く良かったが、企業を見つけるまでと、その後の農家や宿泊の調整が難しい」（観光協会）

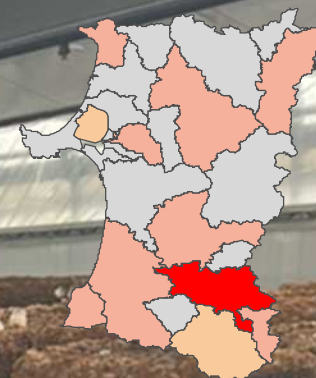
成果

- 農業DX等の地域課題解決に向け、市の担当者と企業との継続的な関係につながった。
- 農作業以外に、農家民宿への宿泊、農業法人の視察、意見交換、マタギ文化の学びなどにより、体験価値が高まった。
- 地元観光協会の関わりにより、観光との連携の形が見えた。

課題

- 「半農半X」の意味、趣旨が曖昧なまま終了した。
- 事業の狙いに合わせた実施時期に調整できなかった。
- 協業や連携協定など、企業のビジネス上のメリットを生み出すところまでつなげるのは難しい。

⑨横手市【R7】



⑨横手市（R7）

受託者：株式会社SEEDs（横手市）

実施年度	人数	実施時期	滞在日数	「半農」の内容	受入農家	募集方法	給与有無
R7	5	10～2月	3～7	しいたけの収穫、大根の収穫、ハウスの解体作業等	(株)SEEDs	企業へのアプローチ	—

特 徴

- 英会話教室や技術商社からの参加者の呼び込み
- 企業が希望する異業種連携の取組を実施（英会話と農業のコラボイベント、近赤外線センサー技術を用いた菌床の水分量の調査・解析）
- 農業法人自らがコーディネートと参加者受入を実施
- 秋田市からの「通い農」によるプログラム参加

対象⇒企業

など



参加者、受入農家の声

「異業種（農業）の方と話すことで視野が広がり新しいアイデアにつながる」（参加者）

「英語教育としても価値があり、イベント参加者の反応が良かった」（参加者）

「毎回の秋田市からの移動が懸念」（参加者）

「通り農だと（ずっと農業に関わるわけでないので）嫌気になることが無い」（参加者）

「会社からは積極的に参加するよう指示を受けたため、参加にあたり支障はなかった」（参加者）

「農業を理解してもらう良い機会だが、継続するには参加企業にビジネス的なメリットがあるのか？ということを考えなければならない」（受入農家）

成果

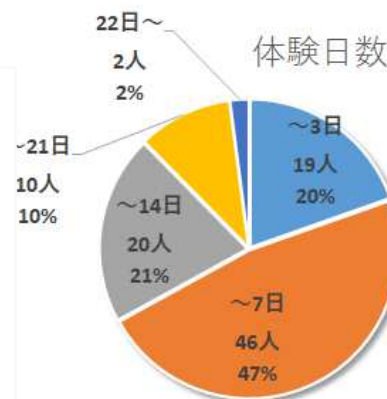
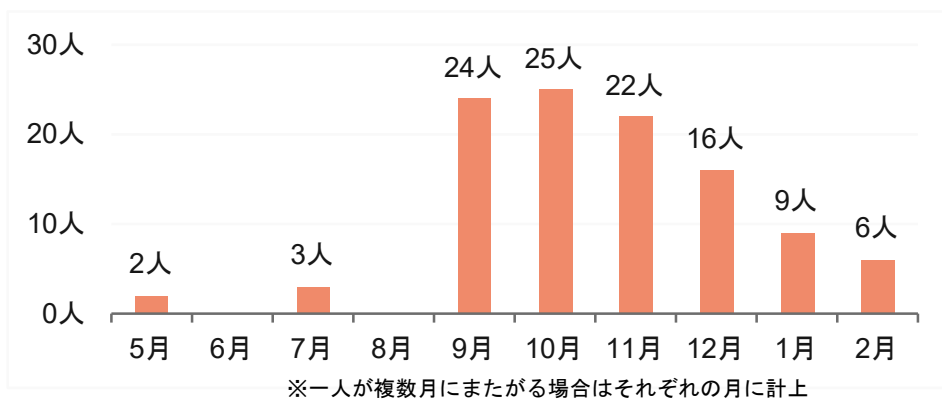
- 「半農半X」をこれまでとは少し異なった視点で捉え、企業に農業を活用してもらい、新たな展開につなげてもらうという試みができる。
- 県内企業の「通り農」による関わりについて可能性が広がった。

課題

- 参加者と受入農家だけの関係で完結し、地域との結びつきが弱かった。
- 受け入れる側の農家や地域のメリットが不明瞭。
- 参加者ニーズに応える多様なプログラムを作れるかが課題。

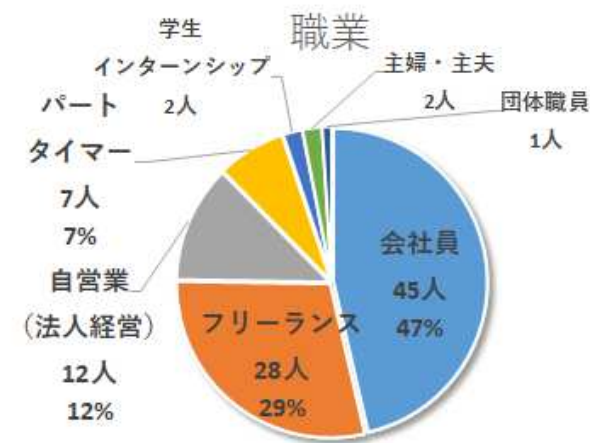
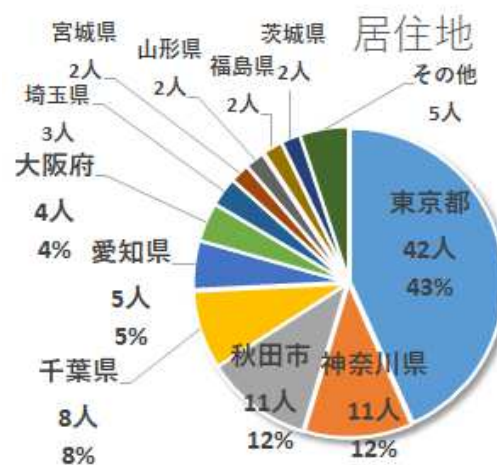
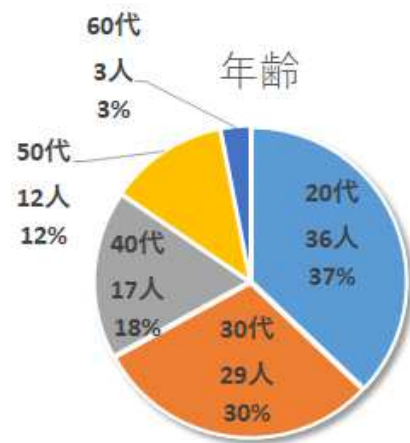
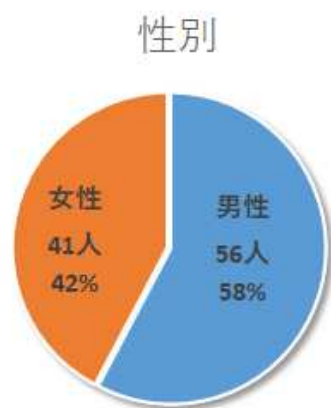
事業実績

(1) 実施時期・期間

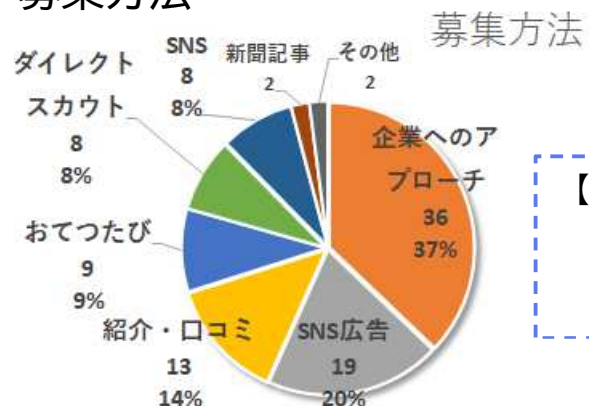


- 9地域、97名が参加
- 委託事業のため着手時期が遅くなり秋に集中した
- 当初は2~3週間の体験期間が多かったが、R6、7は1週間未満が大半を占めた

(2) 参加者属性



(3) 募集方法



【個人向け募集地域（5地域）】

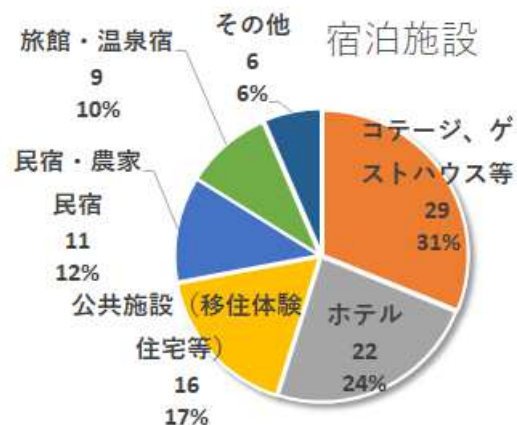
募集定員(実績) 60人
 応募人数 83人
 ⇒ 申込倍率 1.38

- 個人向けはSNS広告等により多くの方に興味を持ってもらえたが、思ったほどは応募に結びつかなかった
- 参加期間が1週間以内と短期間の方が比較的応募が多かった



< SNS広告画像(五城目町) >

(4) 宿泊・滞在施設



< 移住検討者向け住宅(大仙市) >

※宿泊施設以外にコワーキングスペースも使用したプログラムあり

- ビジネスホテルではなく、農家民宿等の地域の特色が感じられる施設を利用した滞在の方が満足度が高かった
- wi-fiの電波強度など、リモートワーク環境への評価は厳しく、不満が多く聞かれた

(6) その他の企画



<地域の施設巡り、町歩き(五城目町)>



<農家への視察(北秋田市)>



<ダムの見学(東成瀬村)>

(7) セミナー・座談会



<秋田版「半農半X」推進セミナー (R6)>



<座談会【あきたの「半農半X」かだる会】 (R6)>



<座談会【あきたの「半農半X」かだる会】 (R7)>

※セミナー、座談会については県公式ウェブサイト「美の国あきたネット」に記事を掲載しています

(8) メディア掲載



<秋田テレビ「Live News あきた」(R3.11.23)>



<BSよしもと「ワシんとこ・ポスト」(R4.10.26)>

- > 事業開始当初は新たな試みということもあり注目度が高く、テレビの取材もあり
- > 地方紙を中心に体験の様子は定期的に記事として掲載

八峰町	【R3】副業とデジタル化で“地方再生” コロナ禍で脱首都圏 (テレビ朝日「報道ステーション」R3.11.11)
八峰町	【R4】農林漁業と人材をマッチング 秋田県が取り組む「半農半X」とは (毎日新聞 R4.4.24)
にかほ市	【R4】秋田版「半農半X」じわり 移住・就農よりも地域の応援団づくり (日本経済新聞 R4.11.12)
鹿角市	【R5】将来の働き方いろいろ 十和田小「半農半X」体験者から学ぶ (北鹿新聞 R5.10.29)
由利本荘市	【R6】半農半Xを呼び込み JA秋田しんせい関係人口創出へ (日本農業新聞 R6.9.13)
鹿角市	【R6】「半農半X」体験好評 本業の気分転換／農家もメリット (秋田魁新報 R6.9.30)
県	【R6】「半農半X」成果を共有 秋田市でセミナー (秋田魁新報 R6.12.13)
北秋田市	【R7】都内の3人「半農半X」 北秋田 実証事業、ナメコ収穫も (秋田魁新報 R7.11.25)

※メディア掲載情報の一部を紹介

4 実証成果

成果概要

参加者・実践者にとっての成果

「半農半X」というライフスタイル・
取組への高い満足度

農林漁業者・地域にとっての成果

農業労働力の確保と地域活力の創出

移住者と関係人口の創出

企業との継続的な関わりの創出

実証事業としての成果

実証事業（県事業）後における取組の継続

秋田版「半農半X」の多様なパターンの取得

多様な中間支援組織の掘り起こし

「半農半X」というライフスタイル・
取組への高い満足度

個人

自然に囲まれた
「農」ある暮らしの実現

- 都会から離れた田舎暮らしを体験できる
- 食や農業への関心、自分が貢献したい気持ちを行動へ移すことができる
- 心身共に健康的な生活を送ることができる

農業や地域に対する
自らのスキル・能力の発揮

- 創作活動や事業立案など、得意なことややりたいことを実現するチャンスがある
- 人手不足や高齢化で困っている地域に対して、自分が関わることで貢献できる

農業に触れることによる
生活や本業への効果の発現

- 体を動かす、自然に触れること等によるリフレッシュ効果がある
- 農家や農業への理解を深めることで、農産物のありがたみや生活を見直すきっかけとなる

企業

農家や農業現場への理解

- 体験や交流を通じて現場のリアルな課題、実情を知ることによって解像度が上がる
- 一次産業という他分野を知ることによって、新たな視点やアイデアを得られる

労働力等を通じた
地域貢献

- 労働力不足解消や地域活性化の取組等を通じて地域貢献につながる
- CSR活動や社会貢献のヒントが得られる

地域課題の把握を通じた
ビジネス機会の創出

- 地域課題と事業を結びつける構想が具現化し新たなビジネスへつながる可能性が広がる
- 農家のほか地域事業者、自治体等とつながることにより、ビジネス連携の機会が生まれる

農業労働力の確保と地域活力の創出

受入地域、自治体

受入農家

繁忙期の農業労働力として一定の評価

- 地域内における人手の確保も難しい中で、来てくれるだけでも助かった
- 1週間以上などある程度の期間だと、労働力として戦力になる

他分野から得られる新たな気づきやアイデア

- 農業以外の多様な職種の人との意見交換や、別視点からの指摘等により、自らの農業を考え直すきっかけになった（フードロス、売り込み方、商品デザイン・・・）

滞在、交流による地域住民の活力向上

- 地域外から参画してもらうことで新鮮な交流が生まれ農家や地域住民の活力に結びついた
- 半農半X参加者との交流の中で、普段あまり無い地域の農家同士の交流にもつながった

参加者による地域活性化、課題解決への展開

- 体験参加したデザイナーによる商品ラベルのデザインなど、地域に貢献する動きが見られた
- 農業現場の理解から、企業による課題解決の提案につながり、継続した関係性へ発展した



<しいたけのラベルデザイン
(八峰町)>

移住者と関係人口の創出

⇒移住者 2人

半農半X体験参加後に体験地域へ移住
(鹿角市〔R5〕、五城目町〔R6〕)

※五城目町の参加者は移住準備中に体験参加

⇒関係人口 17人
(地域への再訪)

個人をターゲットにした地域のうち、
3地域の28人中17人(61%)が参加後
に地域を再訪
(八峰町、鹿角市、五城目町)

※事業受託者への聞き取り調査より
(他の地域は参加者のその後は未確認)



<鹿角市の地域おこし協力隊となって移住した参加者>

- 当初の事業目的だった移住までの到達はなかなか難しかったが、将来的に移住に発展する可能性も秘めている関係人口の創出には一定の成果があった。
- 移住者や関係人口に発展させるには、中間支援組織など、地域と参加者をつなぐ役割が重要。

企業との継続的な関わりの創出

【北秋田市】

農業DXの推進に向けた連携

DX現場支援を行う都内企業が、半農半X体験を通じて現場理解を深め、市役所と具体的連携に向けた検討を継続

【由利本荘市】

洋上風力発電関係企業の継続参加

現場理解と地域貢献を目的に洋上風力発電関係企業が2年連続で参加（R5、R6）。新入社員の研修の場として活用

※その後洋上風力発電事業からの撤退により今後は未定

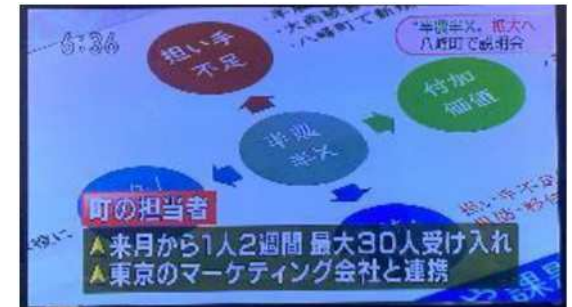
【にかほ市（八峰町、由利本荘市等）】

半農半Xアドバイザー等で連携

にかほ市の半農半Xプログラムへの参加をきっかけに、八峰町の半農半Xアドバイザー、由利本荘市や北秋田市でのモニター調査等で連携。にかほ市では「副業型地域活性化起業人」としても関わりを継続



<半農半Xプログラム中の大規模法人への視察>



<八峰町単独の半農半X事業でアドバイザー連携> 49

実証事業（県事業）後における取組の継続

【八峰町】

- ・実証事業後のR5に町単独事業「半農半X等人材確保事業」を実施
- ・13人が参加したほか、アキタコアベース（東京都）で参加者による交流会を開催

【鹿角市】

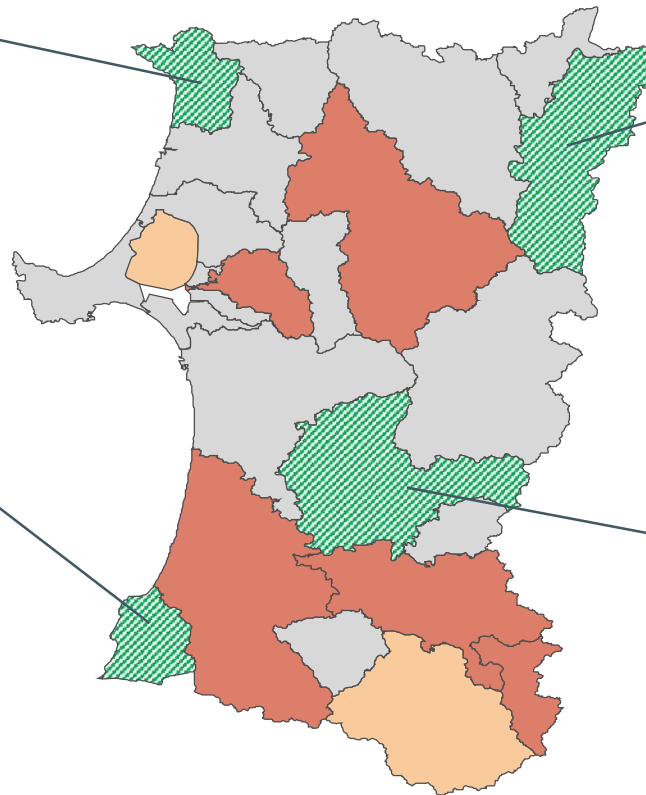
- ・R6、R7に市単独事業「仕事体験プログラム」を実施
- ・移住希望者を中心に、農業を始めとした鹿角市での仕事を暮らすように体験するプログラム
- ・農業と宿泊業に取り組む移住者も創出

【にかほ市】

- ・実証事業から2年後のR7に農水省補助事業「雇用体制強化事業」に(株)ロンドが採択
- ・産地間連携による労働力確保の取組において、半農半Xの成果を生かしたマッチングを実施

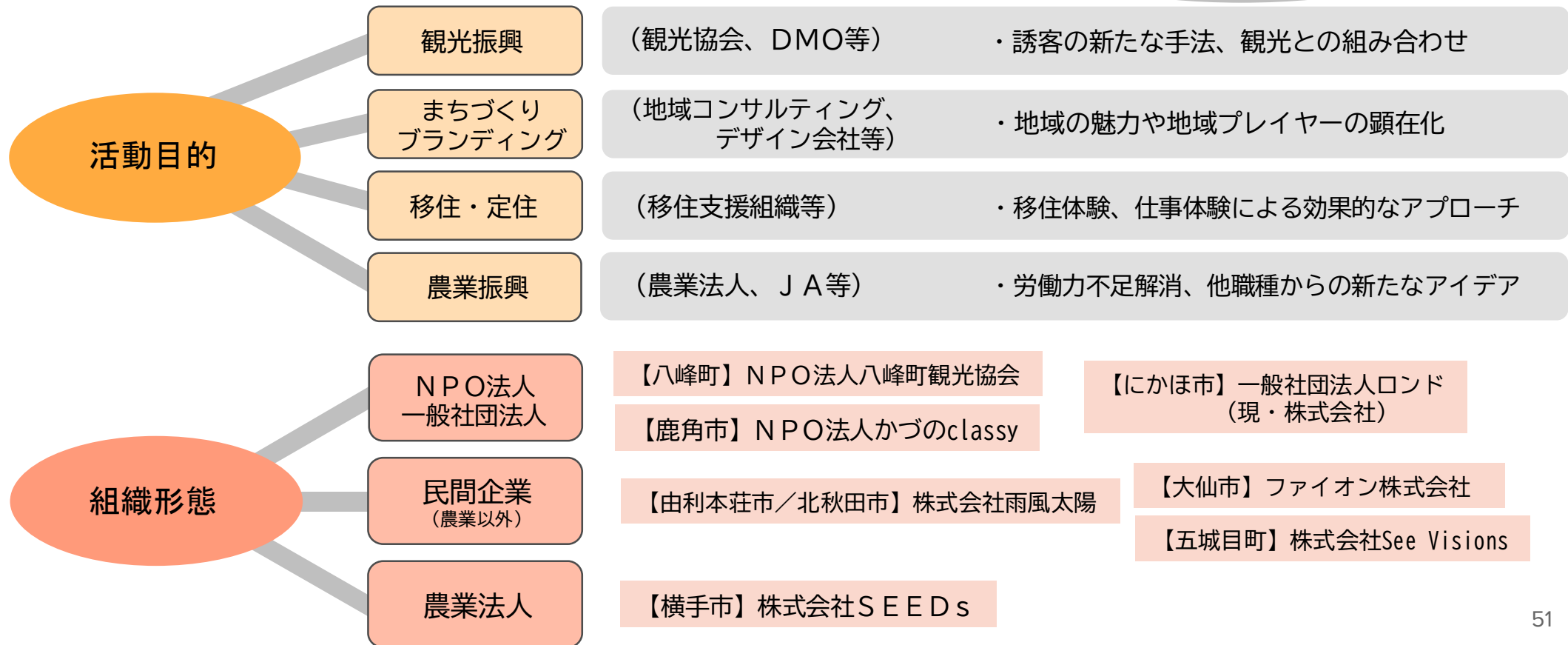
【大仙市】

- ・R8に市単独事業を予定
- ・市の移住検討者向け体験住宅を活用し農業に取り組む参加者を募集

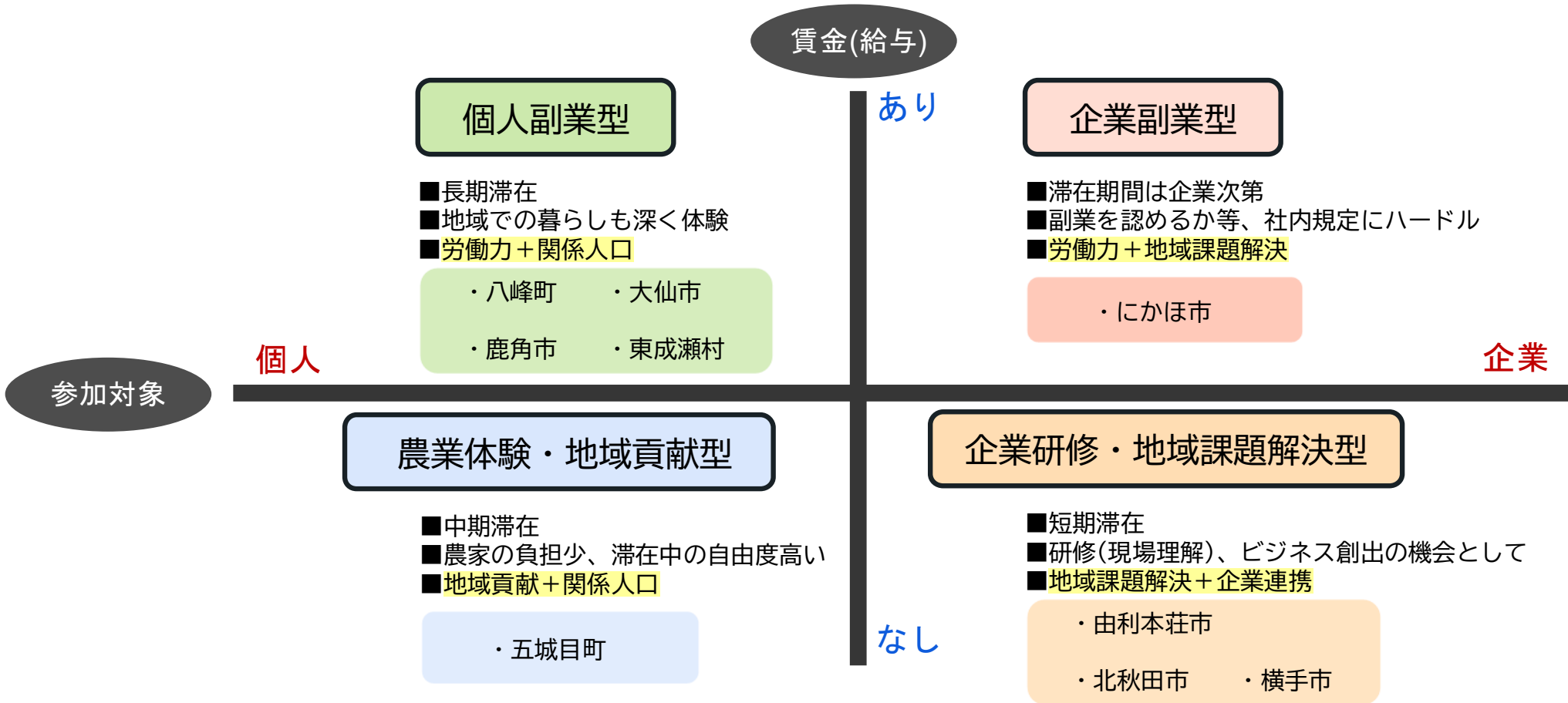


多様な中間支援組織の掘り起こし

「半農半X」との親和性



秋田版「半農半X」の多様なパターンの取得



残された課題

課題

地域側の期待と参加者側の目的がミスマッチ

滞在費用、受入側の人件費や諸経費などが負担

参加募集、人材の呼び込みに苦慮

参加者と地域の関係が継続せず一過性

解決案

- 実施目的を明確にしてターゲット、実施内容を決定（労働力なのか、関係人口なのか、移住なのか）
- 地域課題からその解決を得意とする企業・個人へアプローチし、お互いのメリットを創出

- 公共施設や空き家を宿泊・滞在施設として活用
- 企業の研修や出張の一環で参加（短期間での実施）
- ボランティア労働（体験、援農）で農家の負担を軽減
- 県内で通いながら関われる「通い農」を推進

- 目的に沿ったマッチングサービスの利用（おてつたび等）
- SNS広告は適切なターゲット設定で効果あり（費用懸念）
- ふるさと住民登録制度の活用など、秋田県に関心や縁のある人材へピンポイントで訴求

- 関係人口を入り口に、次の展開に合わせたサポートへのつなぎ、フォローを徹底（就農、移住、多地域居住、企業連携）
- 地域課題への関与を継続的に依頼し、自分事化してもらうことで、使命感を共有

実証テーマの検証結果

(P5実証テーマより)

体験参加者にとって

両立可能な働き方が可能か？

- ➡ 可能である。
ただし、体験時の短期的な働き方だと滞在費用がネックとなる。

農業への関心や、その先の就農、移住などへつながるか？

- ➡ 農業への関心はかなり高まる。
就農や移住となると他要素が重要なためハードルは高い。

農山村地域へどのような関わりができるか？

- ➡ 本業や自分の得意分野を生かした地域貢献や自己実現が可能。
企業として地域課題解決に資するビジネスへの展開も考えられる。

受入農家にとって

労働力として助けになるか？

- ➡ 繁忙期や受入を必要とする状況であれば大いに助けになり得る。
簡単な作業であれば受入側の負担も少ない上短期でもメリットはある。

労働力以外のメリットはあるか？

- ➡ 他職種、他地域から参画してもらうことで、普段生まれない新たな気づきやアイデアにつながるほか、ラベルデザインなどでの連携もある。
自分たちの農業を知ってもらう、ファンになってもらうことで、やりがいや活力にも。

受入地域にとって

交流・関係人口の拡大や移住・定住につながるか？

- ➡ 交流・関係人口の入り口としては有効な手段。
移住・定住まで至るには、農業以外へのサポートや支援体制が重要。

観光振興、地域づくりなどへの効果は期待できるか？

- ➡ 取組を通じて地域のファンになってもらうことで観光振興にもつながり得る。
農村関係人口＝地域づくり活動に関わる人材の創出が期待できる。

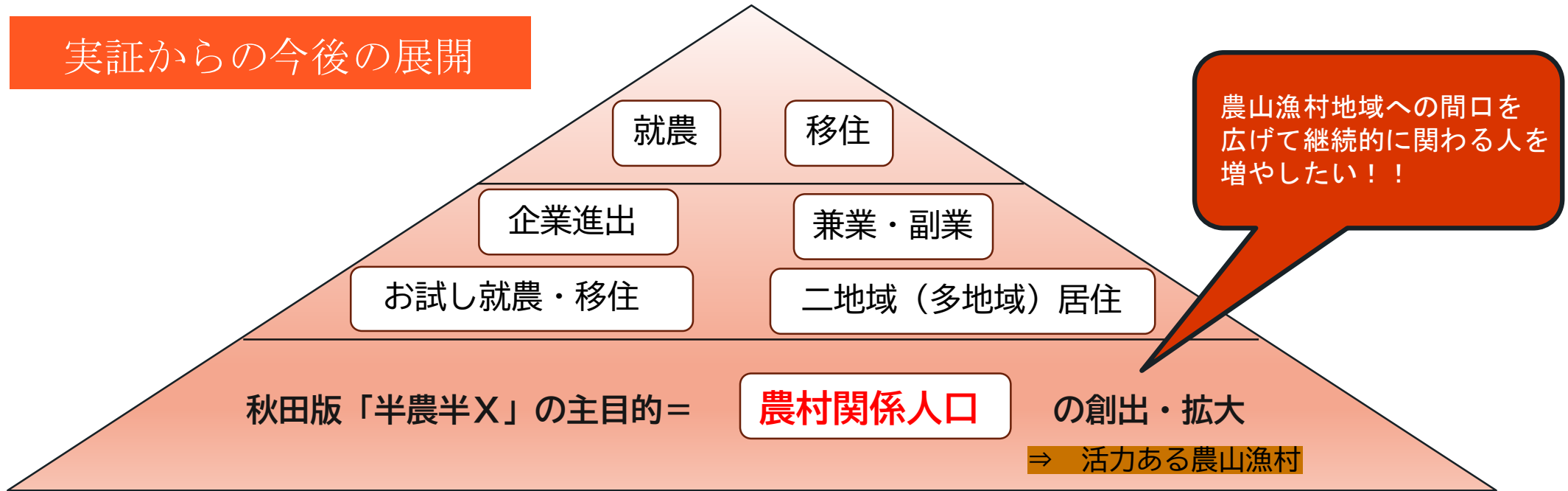
地域課題の解決に結びつく取組になり得るか？

- ➡ 具体的に企業等と連携し、課題の解像度を上げることにより、解決策に結びつく可能性がある。

取組が自走できるか？

- ➡ 単独のビジネスモデルとしては難しいが、自治体連携により自走は可能。
国の補助金を活用して体制を確立することも選択肢の一つ。

実証からの今後の展開



“秋田版「半農半X」”とは？

(実践者目線) → 地域外から農山漁村地域を訪れ滞在し、
 自身の仕事ややりたいこと（X）を継続しながら
 農林漁業（農）に携わることにより、
 その地域の農業労働力や地域課題解決等で地域に貢献する活動

(地域目線) → 受け入れを通じて
 農村関係人口を拡大し、
 地域の活力や課題解決につなげる取組

農村関係人口
 定住人口ではないが、特定の農村地域と継続的なつながりを持ち、地域づくり活動等に多様な形で関わる者

5 秋田版「半農半X」実践に向けて

ステップ1 (目的設定)

➤ 地域側の目指す目的とゴールの明確化

ステップ2 (ターゲット設定)

➤ 目的に沿った人材・対象の設定

ステップ3 (手法の検討)

➤ プログラムやアプローチ等の検討

目的 (方向性)

労働力確保

移住促進

交流・関係人口

地域課題解決

ゴール (到達点)

労働力〇人

農業インターン〇人

移住希望者登録〇人

移住就農相談〇人

ふるさと住民登録〇人

地域イベント参加〇回

〇企業と協定

具体的手法 (プログラム例)

【個人対象】長期滞在+滞在補助、副業支援

【個人対象】体験→農業インターン連携プログラム

【個人対象】仕事+生活体験、移住相談サポート

【個人対象】移住就農経験者と過ごすプログラム

【個人対象】地域貢献型援農ボランティア、滞在補助

【企業対象】CSR活動、福利厚生提案プログラム

【企業対象】地域課題解決+ビジネス創出連携

ステップ4（事業、交付金等の検討）

- 農山漁村での体験活動や宿泊、関係人口創出、二地域居住等へ向けた取組
- 秋田版「半農半X」の定着・拡大への取組
- 農地維持や農村環境保全のための活動への外部人材の参画
- 市町村独自の取組

➤ 目的や手法に沿った交付金等の活用

農山漁村振興交付金（国庫補助）
地域資源活用価値創出推進事業（地域活性化型）
など

秋田版「半農半X」推進事業（秋田県単独）
秋田版「半農半X」支援補助金
など

日本型直接支払交付金（国庫補助）
中山間地域等直接支払交付金
多面的機能支払交付金
など

市町村事業
※市町村単独事業のほか、地域未来交付金（内閣府）の活用も想定
など

実証から次のステップへ

活力あふれる秋田の農山漁村を目指して

秋田版「半農半X」から始める

農村関係人口の創出・拡大

